

林檎

岩手Mac友の会

Vol.2, No.2 1990.4.14

Iwate Macintosh Funclub

岩手Macintosh友の会が結成されてから、早くも2年が立ち3年目に入ろうとしています。結成当時から現在を振り替えると、正に隔世の感を禁じ得ません。機種で言えば、当時の最新機種であった Macintosh Plus が、今ではすっかり入門機になってしまいました。

値段も発表当時648,000円だったものが、今年(90)の4月から298,000円と、半額以下になりました。しかも当初1MBだったメモリーが2MBに拡張され、HyperCardまでタダで付いてきます。このことは、発表当時にPlusを買った人にしてみれば複雑な気持ちかもしれませんが、むしろ、日本でのMacintoshの環境がこれだけ整備されたということであって、歓迎すべきことだと思います。

日本語環境も、漢字Talk 1.1から比べると、Version 6.03では日本語入力フロントプロセッサが充実し、プリンタも、LaserWriter-II NTX-Jの出現でアウトラインフォントで出力できるようになったことなど、今では国産機を追い越してしまったような気がします。

とくに印象深いのは、最大手の代理店であるキャノンが、日本でのMacintoshユーザのサポートを始めたことです。(以前は無いに等しかったので、「始めた」という言葉を使います。)これで、Microsoft EXCEL/Jな

どのバージョンアップ体制が確立されました。かくいう私も Microsoft EXCEL 2.2/Jのバージョンアップを早速申し込み到着を心待ちにしています。

この Microsoft EXCEL 2.2/Jは、英語版の2.2には無い罫線の太さを変えられる機能が付加されています。このことが象徴しているように、Macintoshの日本での環境が、本国と同じ様になってきていると思います。

岩手Macintosh友の会を結成したのは、まだユーザサポート体制が(事実上)皆無だったころ、ユーザ同志がそれぞれの経験や知識を共有し、お互いに助け合って、自分達のMacintosh lifeを快適にしていけることが、主な目的でした。それが前述したように、我々Macintosh userをとりまく環境が整備されてきた今、この会の活動を見直す時期に来ていると思います。

Macintosh関連の雑誌、書籍が氾濫し、入門書から専門書まで充実してきた今、月1回の友の会の例会で得られるものよりも沢山の情報が得られやすい環境ができてきましたし、2カ月に1回発行される「林檎」も、情報源としての価値は薄れてきているのかもしれませんが、しかし、今では会員相互をつなぐ貴重なメディアとして定着しているものと自負しています。編集委員の皆さんの努力には、本当に感謝しています。

さて、いよいよ恒例の岩手Macintosh友の会総会が開催されます。

前にも述べたとおり、今年は大きな転換期に来ているような気がしています。ですから今回の総会は、今後の友の会の進むべき道を左右する重要な会だと思っていますので、是非とも皆さんの活発な意見交換を期待します。

なお、例会の会場は、初回からお借りしていた岩手大学の教育工学センターから、南大通りの木津屋さんのショールームに変更になります。岩手大学の大河原先生、長い間本当にありがとうございました。(野村)

Inside

Meet the Mac	2
林檎ギャラリー	4
English Column	5
IMF's PDS	6
山の花	8
茶房	9
私のMac Life	10
盛岡BBS Now	12
気ままなコラム	14
HyperTerm 顧末記	16
余計なお世話	18
掲示板	19
会員名簿	19
編集後記	19

Meet the Mac

My Computer History

二戸市立金田一中学校

和田 政 男

私が初めてコンピュータに触れたのは1977年、大学2年のときであった。当時私は、物理学を専攻していたが、生まれてはじめて触れたコンピュータは大型コンピュータTSSの端末で、勉強した言語はFORTRANであった。

その頃のマイコンの世界はマニアの間でキットのワンボードマイコンが使われており、テンキーから16進数を入力して機械語でプログラムを作っていた。まもなく、ワンボードマイコンで、キーボードを装着でき、夢のプログラミング言語（当時は、まさに“夢の”だった）、BASICが走るシステムが発売され話題になったのを記憶している。それからややあって、キーボード実装、BASICがROMで実装されスイッチオンでBASICが走る、メモリー空間も32~48KBほどのマイコンが各メーカーから次々に発売され、一気にマイコン、パソコンブームへ突入していった。

そんなときに、私は大学を卒業し、教師になった(1980年)。もともとコンピュータにそれほど興味があったわけではないが、大学時代に一応コンピュータを使ってきた私は、「これからは教育界にもコンピュータがどんどん導入されてくるよ。」と言う先見的な校長にそそのかされ、50万円近い大金をはたいて、当時売れ筋のマイコンを買ってしまった。メモリー空間48KB、モノクロのディスプレイと、外部記憶装置としてカセットテープレコー

ダを内蔵しており、プリンターも一緒に買った。ミニフロッピーディスクドライブも売られてはいたが30万円もしたので、とても買えなかった。

そうこうするうちに、パソコン界の技術革新は進む。それまでアルファベットとカタカナしか表示できなかったパソコン界に、ひらがな、漢字も表示でき、グラフィックも飛躍的に向上したパソコンが登場、フロッピーディスクドライブも標準実装となりつつあった。

そして、私は4年間かわいがり続けてきた愛機に見切りをつけ、新しいコンピュータを買う決心をする。全部で60万円近い買い物である。そのころ、話題の16ビット機も出始めていたが、やはり高価で手が出せなかった(1984年)。

ワープロが安くても30万円はした時代だったので、3万円弱のソフト一本でワープロとして使えるのが嬉しかった。ワープロソフト、表集計ソフト、など非常に優秀な各種アプリケーションソフトが市場に出回り、最早、マニアが趣味でプログラムを開発したり、という時代ではなく、誰もが機械と、自分の仕事に合ったソフトを買ってきて日常の仕事に使ってゆく、という時代の到来をひしひしと感じたりもした。

パソコン界の進歩は激しい。私が新しいパソコンを買うや否や、数ヶ月単

位で、さらにパワーアップした新製品がしかも安く、次々と発売されてゆき、私が買い求めた新しいパソコンは、半年ほどで市場から姿を消してしまった。そして、製品化されたばかりという印象だった16ビットパソコンは、あっという間に一般化した。

16ビット機が一般に広く使われるようになるのとはほぼ同時に、その重要性が一般に広く認識されるようになったのが、OSの概念ではなかったか、と



思う。それまでのパソコン(8ビット機)はROMで内蔵されているBASICのなかに、簡単なOSのようなものを含んでいたにすぎず、ユーザーがOSを介して機械を動かしている、という感覚は無かった。8ビット機にもCP/MなどのOSは発売されていたが、数万円というお金を出して買う必要も感じなかった。1987年4月、我が金田一中学校にも16ビットパソコン23台が導入された。そして、はじめてMS-DOSに触れた。「うわあ、すごい!」、パソコンの世界が大きくひろがるのを感じた。

..... と、実はここまでの文章は2年

半ほど前に教育とパソコンをテーマとするある雑誌社に依頼されて書いた文章の抜粋である。

この直後マックとの劇的な出会いがあり、私のパソコン観がガラリと変わってしまうのである。

1988年2月14日、私の結婚式披露宴の2次会の席でパークレーに留学していた大学時代の友人がしきりにマックの話をする。名前こそ聞いたことがあるものの見たことも触れたこともない私には話を聞いてもピンとこない。数日後、岡山に出張の途中に横浜にいるその友人の所によって初めてマックに触れる。ガーン!、一発でマックの虜になってしまった。それからは、パソコンの話が出る度にマックの話ばかりしており、次の東京へのお出張の際にはついにMacintoshPlusを買ってしまうのである。

マックは最高!でも、困ったこともないわけでもない。ひとつはお金がかかりすぎる。最初は喜んで使ったPlusも仕事に使うには遅い、イメージライターの印字は遅い、うるさい、汚い。おもわずDesk Writerを買ってしまう。研究論文を書く。ワープロの変換が遅い、スクロールがのろい、スーパーポイントで図を作る。部品をつかむのに時間がかかる。イラつく。アクセラレーターを積むこともずいぶん考え悩んだが、結局SE/30を買ってしまう。今度はビデオボードとカラーモニターが欲しいし、スキャナーやサウンドデジタルも欲しい。ほんとにマックって金食い虫。

もうひとつ困ったことは、もうMS-DOSマシンには戻れないということ。ところがどこの学校に入っているパソコンも全部DOSマシン。

もう、私のからだはMS-DOSマシンで教材なんか作れない体になってしまったというのに。



女性でも簡単につかえる

萱沼まゆみ

4年位前に始めて、マックの説明を聞く機会がありました。その時はそれほど必要とは思いませんでした。(購入したいとは思いませんでした。)1年ぐらいたって女性でも簡単につかえるパソコンだから是非使ってみてはと進められましたが、ソフトが(日本語版)まだそれほどなかったように思いPCをつかって見ることにしました。私は、相手を理解し対話をもつため好きでもないパソコンを始めました。メカニズムに全く弱い私です。とても大変でした。ロータスにしても、一太郎にしても、桐にしても、マニュアルを見ながら覚えるには仕事をおえて帰ってからの時間では楽しみながらとは行きませんでした。

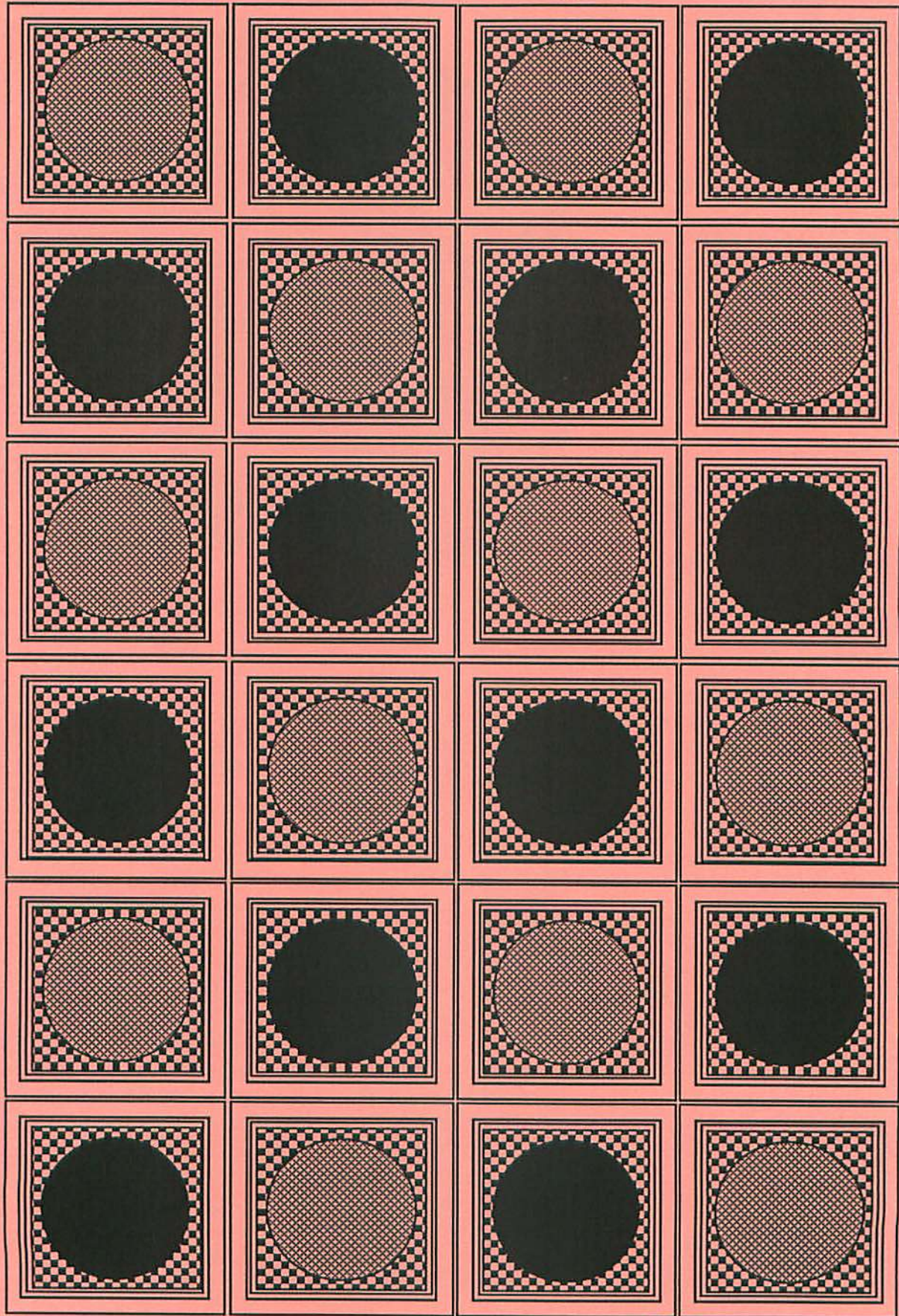
又、1年位してマックの講習会に参加する機会がありました。教育にパソコンを導入するためにマックを理解するためでした。

その時感じたのは、一人一人個性を

出せるコンピューター、機械である事を感じさせない自分と一体で心があり素晴らしいと思いました。動きもあるしこれだったら、私の相談相手、友達になってくれると思い購入することになりました。でもその時は、データ処理ならPCだろうと思っていました。しかし、エクセルを使ってみましたが、マック 驚きました。会議の資料づくり、グラフ作成大変助かっています。帳簿処理を早くマスターしたいと思っています。まだほんの少しだけしか使えませんが、ずーと長く友達であることができると思います。マックの会には、一度も参加したことがありませんが、マックを使いこなせるようになって皆さんの仲間入りができ、対話ができるよう頑張りたいと思います。

パソコン通信もできるように一人でも多くの方に知っていただきたいマック、こころのあるマック。

マックの大ファンです。



1990-3-masao-segawa

Human Relationship Networking.....

When things are going well, when we are healthy and strong, and still young, we give very little thought to what might happen in the future. But we may suddenly fall seriously ill or have an accident. Also, all of us are growing older day by day and will not always have the strength we have now.

A recent letter from a friend left a deep impression on me. She was very active as a school teacher and even after retiring from teaching she continued to be very active in volunteer work. However, recently she had cataract operations in both eyes, with one eye responding well, but not the other. Therefore she had to give up driving as well as a number of other things.

A nurse assists her twice a week with bath and laundry. One of her friends takes her to church after which she has lunch with another friend. She writes: "Several nieces and nephews who through the years have been to me like brothers and sisters help me with the shopping. One nephew

...insurance for our time of need

...by Richard L. Lammers

winds my mantle clock, another feeds the birds and another shovels the snow."

She never married so has no family of her own, but her letter is full of joy as she tells of friends, nephews and nieces who help her in this time of special need. Such a network of friends did not develop overnight. It took many years. But what better insurance than people in our time of need. The network of friends she developed through the years are more important to her than savings accounts and life insurance. What is one person's need today, may be another person's need tomorrow. If I help you in your need today you may be able to help me in my need tomorrow.

"A friend in need is a friend indeed," is a well-known saying in the English-speaking world. To be friend to someone in need, even if only a small need like "winding the mantle clock," may be the best 'payment' we can make to insure that someone will help us in our time of need.

創刊号からこのコラムを担当していただいた L. Lammers さんが残念ながらアメリカにお帰りになることになりました。これからのアメリカでの活躍をお祈り申し上げます。
引き継ぎ D. Harry さんに担当していただくことになりましたので宜しくお願いします。

The dictionary defines change as: to make different or to become different. That certainly describes my life and the lives of those with whom I live and work.

This April there are many changes taking place to me and to those who are around me; my family, my friends, my students, and my co-workers. Two of my co-workers and friends are retiring and returning to the United States; some of my students and friends are graduating from elementary school, junior high school, high school, and university; some of my friends and students have acquired a new status in life through marriage or will soon be married; other friends have just had a new baby in their family; and I have just completed another school year with my colleagues and will soon be beginning a new one. We will all "become different" because we will

Changes

...by Dick Harry

be facing new situations and new challenges in life.

To me, the important thing is not that these changes are taking place in our lives, because to live life is to experience many changes, but to look on these changes as opportunities that have been given to us to live our lives more *creatively*. Of course there will be tears as long time friends and loved ones leave us to continue their life journey, but just think of the new friends that this day, this week, this month, and this year will bring to us. So, instead of looking on change as an ending, we should think of it as a new beginning, a fresh new start, and look forward to it with excitement, and one where we can make the difference, instead of just becoming different.

◆ チョットしたきっかけ

佐藤先生のSE/30のお広めの席上に野村会長がお祝いのワインを持ってきたんです。おいしいワインだったんで車で行ったのに飲んじゃった訳です。酔いが醒めるまで居残っていたら徳富さんと高橋さんと三人だけになってしまい、色々話しているうちに「盛岡市のBBSのナビゲーター」を作りたいと徳富さんにけしかけたわけです。当時、徳富さんはTypingTrainerをMSBasicで作ったIMFの唯一のマックプログラマーだったんです。

で、暫くしてフッとそのことを思い出した訳です。

◆ シリアルXCMD

と同時にその昔手に入れたHyperTermというスタックのことも思い出しちゃったんです。

このHyperTerm、シリアルポートをいじるXCMDのサンプルみたいなスタックで、Msgボックスにタイプした文字列をポートに書き出し、ポートに入ってきた文字列はフィールドに書き出すという、それだけのものだったんです。探し出して動かしてみました、たしかにBBSと通信はできます。

◆ HyperCardの難点

ところが使い物にならない。受信した文字列がフィールドにノソノソ書かれていく様は呆れるほど遅い。書かれた文字列が多くなるほど遅くなっていく。

HyperCardはフィールドに何か書かれる度にディスクに書き出すんです。量が多くなると当然、時間がかかります。ほとんどディスクアクセスの時間です。おまけにスクロールフィールドにスクリプトでAppend(つまりput Strings after field)してゆくと自動スクロールしてくれない。フィールドの下まで書き出すと、後はこちらがスクロールしてやるまで残りは見えないとき。

◆ スクロールの工夫

そこで考えた。いつでも書かれた最

後の行が見えるようにできないものか。トラの巻を見ると、Set the scroll toというコマンドがある。

Set the scroll of fieldname to (n-1)*(textHeight of fieldname)とすればn行目から表示できる。

で、最初はフィールドがいっぱいになったら一行ずつずらしていった。これはフィールド全体を書き換えるのとディスクに書き出すのと相まってヨイショ、ヨイショ、という感じで表示する。

ならばと、一行ずつは止めてフィールドが一杯になったら一気に全部スクロールさせてみた。つまり真っさらなフィールドがだんだん埋まり、満杯になるとまた真っさらになる繰り返しです。でもこれは前後のつながりが分断されて読みにくい。

で、半分ずつにすることに決める。スピードと読みやすさの妥協点です。

◆ 一括表示は自動運転

それにしてもインタラクティブな通信アプリの使い勝手には遠く及ばない。やはりある程度まとまった量を書き出す以外に、このギクシャク感は回避できない。

しかし視点を変えると、通信中は一切を自動化して一括表示をして通信終了後にゆっくりと読むことにすると何らこれは障害にならない。

よし、決めた。一切を自動運転するナビゲーターをこれで作ろう。

かくしてHyperTermの開発が始まった訳です。ネーミングはそのままHyperTermをいただくことにしました。コピーライトがなかったことと、内輪のPDSにするつもりだったんで、勘弁、勘弁。

◆ ボタンに名前がなけりゃ

で、ボタンを作ります。同じようなボタンはOptionを押しながらドラッグするとコピーが出来ます。一列に並べるときはOptin+Shiftで簡単に同じボタンが整列します。

通信画面には17個のボタンが並んでいます、この方法で並べました。

余りにも簡単にコピーが出来たものですから、後になってから困ったことが起きました。

HyperCardがボタンを特定するのに三つの方法を使っています。

一つ目はID。二つ目は名前。同じ名前も許されますが名前でボタンを指定したとき、HyperCardはその名前を最初に見つけた時点で特定しますから、あとのボタンはいつも指定できないこととなります。

三つ目は作られた順番に付けられる番号。先程の名前はこの順番に探されますから、後から作った同じ名前のボタンは名前前で指定できなくなるわけです。そして、この順番は変化します。たとえばボタンを削除するとそれ以降の番号は前に詰められて若くなります。またオブジェクトメニューから「全面へ出す」「背面に送る」を選択して意図的に順番を変えると番号が変わります。

番号でボタンを指定するのは簡単なものですから、これでスクリプトを書いた結果、後でボタンを削除しなげりゃならなくなって混乱を生じました。面倒でも名前を付けておくべきです。

◆ 作った順番は見える順番

よくやる手として二つのボタンを重ねておいて上のボタンを隠したり出したりして、あたかも一つのボタンが違う見えがかりや機能を持っているように見せることがあります。

もし仮に、少しづつずらしながらボタンを重ね合わせていたとしたら、順番が変わると見え方が変わります。作られた順番に奥から置かれますから重ね合わせたボタンは要注意です。

じつはこの順番、ボタンだけに限ったことではなくフィールドも含めて作った順に置かれますから、よく、画面大のフィールドを最後に作って、隠したり出したりしてカードの切り換えの代わりにさせたりしているときに、追加したボタンがそのフィールドの前に現われて意図した効果が出ないなどの不都合が生じます。

作る順番はその他に番号でループを回すときなども重要ですから、余程しっかりと計画的に作らなければなりません。

◆ ポップアップメニューの多用
通信には様々な設定がありますが、HyperTermでは読みたい掲示板の設定などあらかじめ決まった項目の中から選択するようなものは、ポップアップメニューから選択するようにしました。このポップアップメニューもXFCNで流通していましたのでこれをお借りすることにします。

ついでに数値を設定する箇所もボタンクリックで数値が増減するようにしました。出来るだけマウス一つですべての操作が出来るようにです。

◆ モデムの問題

さて、通信に大きく影響を与えるモデムの設定は一筋縄ではいきませんでした。

というのもヘイズのATコマンドは各モデムに方言があって、一義に決められなかったからです。

しかたなしにモデム設定というフィールドを作って、細かい設定はここに書いていただくことにしました。その後のトラブルはこの設定に起因することが大きかったようです。

◆ 文章作成画面

書き込みの自動アップも考えていましたので自前の文章作成画面を持つことにしました。

普通のインタラクティブな通信ソフトのようにファイルのアップ機能を持たせるだけでは書き込み先や表題はオンラインで書かなければなりませんので、予めこれらを一そらい用意しておかなければなりません。

◆ 改行無しの発見

この文章作成画面は、ミニエディタ的な機能を持たせようと考えました。ま、スクリプトで出来ることは限られていますから最初は行数と文字数の表示、削除と改行なしというボタン

を付けました。

この「改行なし」はHyperTalkの面白い特長から思いついて作ったんですが、結構重宝する機能です。

HyperTalkはGet line n of field Nameとやると、linenのおしりのCRは取り込まないんですネ。

したがってPut line n of field Name after ContainerをNumber of linesだけループで回して、Put Container into field Nameすると瞬間的に改行が取れてしまうというわけです。

◆ ファイル操作のXCMD

これだけではエディターとしてお粗末なもので、外部からファイルを取り込んだり、書き出すためのボタンを付けたくります。

これはHyperTalkで十分実現できますが、標準的なインターフェースのようにダイアログから読み込むファイルを選択したり、書き出すファイルを取るボリュームやフォルダーを指定しなくります。

これらの機能はHyperTalkは持っていませんから手頃なXCMDを探しました。野村さんからICS-Net経由でいただいたような記憶があります。

これらのXCMDはマックの標準的なダイアログでファイルの指定が出来ますのでいかにもそれらしくなってきました。

◆ EOF は 0

ファイルを指定した後は書き出すほうは簡単です。open file PassNameでオープンして、write field FieldName to file PassNameすると一気に書いてくれます。

一方読み込むほうは区切り記号までか、指定したバイト数まで読む仕様になっていますので、通常はCRまでをnumber of linesだけ読むように教科書には書かれています。こうですネ

```
repeat
read from file PassName until return
if it is empty then
exit repeat
else
```

```
pui it after container
```

```
end if
end repeat
```

でも、HyperTalkは遅いもんですからループを回すのはあんまり得策じゃないんですネ。

で、マックのOSはファイルの最後はデリミタに\$00を使っているのこうしました。

```
put the NumToChar of 0 into EOF
read from file PassName until EOF
```

これで一気に読み込むことが出来ました。

◆ ログの切り出し

最初にお話したようにHyperTermは通信画面のフィールドに通信のログを掲示板毎に一括して表示します。このとき特殊な記号(あまり通常の文章中には現われない記号)を頭に付けて掲示板名を最初に書き出してからメッセージを書き出します。これは後で掲示板毎にメッセージを整理しようと考えたからです。

一応、読んだ後にファイルにセーブして保存するボタンも付けましたが、せっかくのHyperCard、メッセージ毎にカードに切り出してログブックを作らない手はありません。(実はこのとき野村さんのMac in Talk Logbookの存在を失念していたのです。この機能はMac in Talk Logbookに任せてしまえばずいぶんと楽が出来たのにと後で後悔しました)

この記号(具体的には"")を目印に掲示板を判断してフィールドに書き込み、後で掲示板と書き込んだ日付でソートすると掲示板毎にまとまります。

◆ 検索の工夫

ログブックには検索ボタンを付けました。最初は自前の検索スクリプトを書きました。

カード毎にnumber of linesだけif "検索文字" is in line n of field Messageだったらoffset ("検索文字",line n of field Message)を取って、textheightと文字幅から検索文字列の左上のポイントを

(16ページに続く)

七月に秋田駒ヶ岳に登るとエゾツツジが見られます。鮮やかな赤紫色の直径約3cm位のおおきめの花が、比較的浅い緑の葉をつけた落葉の低木に咲き、群落を作っています。この花は、平地の栽培のツツジやサツキに似ておりますが、本来咲くべき山の中で自生している姿には心に残る美しさがあります。5枚の花弁のなかの上の方にごま粒の様にまかれた点と、花の中心か

山の花

佐藤護人

らのびて上方にそりかえったシベがツツジ本来の高貴さを特徴づけ、西洋種のアザレアとは異なる雰囲気をかもしだし、茎や葉の毛がそのまわりの空気を浄化しているようにさえ見えます。エゾツツジとは北海道一帯夷地一で見られるツツジと言う意味ですが、高山植物を扱った本の写真は秋田駒ヶ岳で撮影されたものが多いようです。



エゾツツジ

茶房

BY...佐々木

何を書いても良いというのは、一番書きにくいものです。この会報を読まれる方々の共通項はMacintoshしかないの、Mac以外のことを書くとなると困ってしまいます。今まで担当された人達のように面白い実体験もないし・・・仕様がなくて、唯一の趣味、ひまつぶし読書で集めた本の中から、面白くて手に入り易いけどあまり知られていないだろうなあ、と思われるあまり重くない読み物を、文庫を中心に紹介します。春の夜長(そんな言葉は無かったですね)の御参考までに。

「スターリン・ジョーク」(河出文庫)

最近文庫化されました。昨年話題の中心、共産圏の政治ジョークを集めたものです。

例えば、

ワルシャワ大学の学生がイデオロギー・テストを受ける。

「資本主義はいかなる発展段階か？」

「資本主義は絶壁のふちに立っています」

「よろしい。では、社会主義はいかなる発展段階なのか？」

「社会主義は、資本主義の次の段階です」

などなど、辛辣なものが沢山掲載されています。ジョークが流通していく過程を想像すると、マスコミの報道とは違った側面から社会の姿を伝えてくれるような気がします。このような本を読んで笑っているだけという自分は、不謹慎なような気もしますけど。

「封神演義」上中下(講談社文庫)

大学時代に少しじった中国関係から。前に野村さんがBBSで紹介していました。「三国演義」や「西遊記」、「水滸伝」など同系列の中国の講談

本です。殷周革命を舞台に、実在?の歴史的人物の陰で、仙人や妖怪が大活躍し秘密兵器がとびかうという、そのへんのSF小説がちやちやにみえてしまう面白本です。だまされたと思って御一読を。

「弥縫録」(中公文庫)

もうひとつ中国関係から。小説家陳舜臣さんが中国の名言を解説したものの。そろそろ死語になりつつあるこれらの言葉を、エピソードをまじえて面白く解説してくれています。一日一項目ずつ読むのに丁度良い本です。

「チャリングクロス街84番地」(中公文庫)

チャリングクロスというのは、ロンドンの通りの名。このチャリングクロスにある古書店の店員と、そこに書籍を注文する米国の女性作家との、書物に対する愛情という共通の心情に支えられた心あたたまる往復書簡集です。担当者が亡くなったことを作家に知らせる古書店からの手紙には思わず泣けてしまいます。書物を愛する人達には、結構有名な本だそうです。心やさしくなりたい人のために。

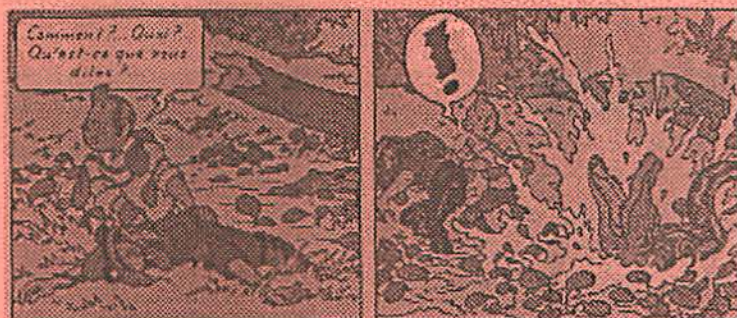
「我が秘密の生涯」上中下(富士見ロマン文庫)

文庫名をみてのとおりその方面の本です。19世紀のイギリス青年の○遍歴を描いたもので、遍歴を通じて人間的に成長するのかと思いきやひたすら溺

れていってしまうのみという教養小説の裏返しです。この本は、詩人の大岡信、小説家丸谷才一両氏をはじめとし各方面から絶賛されているもので、明治以降の我が国の師匠である西洋文明のひとつの絶頂期ヴィクトリア期の裏面を描きヨーロッパ文化を理解するための貴重な文献、といわれていますが、恥ずかしながら興味がそちらにはいきませんでした。

「タンタンの冒険」(日本語版は福音館刊)

最後に、唯一の趣味のおまけのもうひとつの趣味である外国漫画の収集の中から、フランスの子供漫画「タンタンの冒険シリーズ」を。タンタンという新聞社の少年特派員を主人公とする冒険漫画です。ニッカポッカをはいたタンタンと愛犬のミロが世界中を飛び回り様々な事件を解決していくという、フランスをはじめ世界中で愛されているシリーズです。日本の子供漫画に比べると迫力がないものには感じられるかも知れませんが、しっかりとした構成と丁寧な造りから私はこちらの方が正統だと感じられます。日本では、20年ほど前に主婦の友社からパートカラー版が出されましたが、売れなかったのか3作で打ち切られてしまいました。最近福音館からフルカラー版が出版され、こちらは順調のようです。作者のエルジェは最近亡くなったようで、3月に銀座の洋書店イエナを覗いたら追悼本がならんでいました。お子様にどうぞ。



TINTIN ET LES PICAROS

私の Mac Life

by... 浅田 昌稔

コンピュータとの関わり

最初にコンピュータとの関わりを持ち始めたのは、高校の進路ガイダンスの時からです。

別にどの進路にするか深く考えていなかった私は、その時のガイダンス資料にあった「将来の花形産業」という歌い文句に魅せられてついつい情報処理産業の道に踏み込んでしまったのでした。

専攻科目もそっちの科目を選択し、主にメインフレーム系の授業になりました。

当然、メインフレームを基準に世の中の尺度を考えているわけですし、当時出たマイコンやパソコンなんて、複雑なロジックを持つゲームマシン程度の認識でした。もちろん、ちょっとはいじってみました（PET, MZ80, SORD, etc.）、それを使ってアプリケーションを作るとか、データ管理するとか、仕事に使うとか、とてもとてもそういう発想がありませんでした。

そんなこんなで、仕事もメインフレーム相手の仕事につき、「コンピュータは、メインフレームでなきゃ！パソコンで何が出来るの？」と言う考えが至極もっともに思えていて、マックなんて知るよしもありませんでした。



System

マックとの出会い

そんなある日、IMFの会長でもあり同じ会社の野村さんの机の上に小さなパソコンかあるいは、体の良いマイコン（その当時はそういう発想でした。）が、のっかっているではありません。

せんか！おやおや、野村さんもパソコンなんか買ってどうするのかな？と言う疑問がフツフツと湧いてきました。

野村さんに聞いたら、なにに、これはMacintoshというパソコンでユーザインターフェイスに優れたマシンだ！なんて言ったかどうか忘れてましたが、色々機能や他のパソコンとの違い等を教えてもらった記憶があります。



Virtual Memory

元々、メインフレーム畑の私でしたから、当然パソコンで一体何が出来るのか、せいぜいゲームや、お絵書き程度の遊びしかできないと思っており、パソコンと言えば、13インチの画面と、割と大きな本体、5インチFDDと言った決まり切ったスペックを催眠術のごとく洗脳されていたのでした。

当然、野村さんの机の上にあったMacを見たとき、こんな小さなパソコンで何が出来るのか、いくら発想が良くても画面は小さいし白黒で、図体が小さい（即ち、性能もたいしたことがないという短絡的な発想）と言うのが正直な感想で、野村さんのMacであるフライトシミュレータを時々させてもらっている程度の付き合いでした。

そうこうしているうちに、某メインフレームメーカーへの派遣の関係で仙台に1年ぐらいと言う辞令が出てしまい、ゲームを惜しみながら仙台へ引越しました。

と言うわけでマックとの最初の出会いは、ゲームと共に過ぎたようなちょっと感激の薄い出会いだったと思います。

Macが欲しい

さて、仙台では某メーカーの仕事で、あるユーザの仕事を担当していました。

そこでは、当然メインフレームのマシンを使い、ユーザの要望にあったソフトを開発していましたが、その端末に使っていたMS-DOSマシンの使いにくいこと使いにくいこと、表計算のソフトや、グラフ作成ソフトなど、色々ソフトはあるんだけど、どうもあの「A>」から始まる操作やデータの管理が面倒なこと、常にコマンドを入れないと使えないことなど色々な要素が組み合わさって、だからパソコンは使いにくいというイメージが固まりつつありました。

さらに、私自身システム手帳なるものに凝り始めていて、住所管理やスケジュール管理、金銭管理等に使えるものはないか考えている時期でもありました。



そんなある日、ふと野村さんのMacの操作が頭をよぎり、あれぐらいの感覚で操作できればいいなという気持ちになってきました。しかも追い撃ちをかけるように、同じ会社の同僚である藤村君や、斉藤君がMacを購入したというニュースも、私のMacに対する感心を高める要因になり、月一回の本社への報告のときは、必ずとっていいほど皆さんのMacをのぞいて帰るとい生活を送っていました。

こうなってくると当然購入意欲も湧いてきます。

まず野村さんに機種の設定をお願いしてSE (2FD) +InnerHD40の組み合

わせにしました。(この組み合わせは、今でも十分に使える組み合わせで、重宝しています。野村さんに感謝！)

仕事にしたい

さてさて、最初のうちはせいぜい住所管理や、金銭管理に使おうと思っていましたから、ハイパーカードの住所録とExcelをちょっといじっては、データを入力したり色々な雑誌の記事からスタックをカスタマイズして見る程度で満足したつもりになっていました。

ところが、どうせ使うのなら仕事でも役に立つような使い方をしたいと思い、ちょうど、ユーザ先での仕事があったので早速持って行って試してみることになりました。



短期間で、大量のドキュメント作成には、手作業では大変な作業になる仕様書作成を、マックでスイスイとは行きませんが、重複する部分が多いものやちょっとした修正には抜群の威力を発揮しました。

ハイパーカードを使いたい

ところで、マックを購入して以来、実はハイパーカードをほとんど言っていないくらい、手を染めずに人の作ったものをちょっといじったくらいしか使っていませんでしたが、使っているうち自分でもスタックを作ってみたいとの欲求が出てきて、今あの分厚い(マックのマニュアルとしては、普通?)「ザ・ハイパーカード」を悪戦苦闘して読んで何か作ってみようかなと思っているところです。しかし、なんとかならないですかね、あのスタックサイズ、すぐデカクってしまいます。

悪戦苦闘の毎日

つい最近、念願のSE/30が手元に届きさっそくチューニングの毎日にあけ暮れていて、爆弾の嵐です。

それでは今の環境はと言うと、以下のような具合です。

本体: SE/30 (FD)
HDD: YE-DATA80
SYSTEM: 6.0.4J
Finder: 6.1.4
漢字Talk: J5-6.0.2
メモリー: 12MB
(仮想メモリー; 実装は5MB)

購入時ついてきたStorWareと言うFORMATERを使って3パーティションにしています。一つは、システム用、後の二つはアプリケーション用です。

以上のシステムをMultiFinderで動かしています。

ウインドウのオープンクローズ、アプリケーションの立ち上がり、グラフィックの修正などは、前のSEに比べて格段の差があります。

しかも、ユーティリティのテスターで計った結果、CPUでSEの4倍、演算では、何と30倍にもなります。



Speedometer

日本語FEPには、最近EGBridgeを主に使っています。

スプレッドシートは、Excel 2.2、BBSには、NinjaTermとHyperTermで、盛岡BBSとNifty、Junet (Unix) をアクセスしています。

さて、良い事づくめに見えますがSE/30を使っていて次の様な不具合があります。

・AfterDark等のスクリーンセ이버と相性が悪い。(システムエラーが出やすい!)

・Mac WorldGolfが動かない。(システムバージョンの問題か?)

・MultiFinder下での日本語ワープロなどの漢字Talk環境を使った際のシステムエラー

・Cricket、Illustrator88が動かない。(その後、バージョンアップで対応されました)

数え上げたら切りがないですが、取りあえずこんくらい出れば落ち着くかなと思っている頃です。

(あつ、画面が凍った!)

福田さんには、複数パーティション化やシステムチューニングで色々アドバイスしていただき有難うございました。紙面を借りて感謝します。

すばらしい明日へ

最近、他社のパソコンもPMとか、X-Windowとか、色々マックライクなユーザインタフェイスが増えてきて一応のスペック的には、遜色がなさそうなものが出てきました。

しかし、やはりマックでしか実現出来ない物がたくさんあり、しかも当然アップル自体もどんどん性能アップや、新しい発想を出してくるでしょうから、これからもアップルの先見性は、確保されていくでしょう。

(かなり希望的観測?)

もっと周りにマックのすばらしさを理解してもらい、広い意味でのパーソナルコンピュータとしてのマックがどんどん普及して欲しいですね!

さらに、こういったパソコンの進化が、仕事の上でもいままでの鉛筆ノートから、パソコンにとって変わる日も近いと思います。

それでは、今回はこれぐらいで。



SuperClock!

●最近の暴走族

今回は、近頃暴走族になられた皆さんの喜びの声 etc.です。聞きたくない、聞きたくないという感じですね。

◎238: 90MAC020 89.12.18 21:37 Iicx第一報

我家にMacIicxが入った。花嫁さんを迎えた気分です。毎日ニコニコそわそわ顔のこの頃です。Plusでも結構の仕事ができていたのですが、大きなスプレッドシートを使うときなど「メモリー不足！」が頻発したり、テーブル計算をするとき余りにも時間がかかるので、Iicxを入れることになった訳です。Iicxで最初のトラブルは、Ninja Term 0.952 が使えなくなったことです。始動し始めると画面が乱れて文字の判読が困難になります。佐藤先生からNinjaTerm 0.961 をCopyしていただき、それからはうまく行っています。その他、DAのうちでいくつかのものは使えなくなっています。Iicxの使いあはばいは、誠によろしい。また報告しますのでよろしく。ニコニコの吉田です。

◎226: 90MAC003 89.12.21 19:15 Iieiの第一印象について

昨日、モニターが到着して、Ciがやっとの事で動く様になりました。1日使用してみても第一印象は、概略するとそんなに(巷で言われている様に)使用上、コンパチビリティは悪くないという感想を持ちました。今までと同じ様な感覚で使え、大きく気にするところは無い...という感じです。既存のDAINITはIAM上でその殆どが走りますし、(例外はSuperClockのみでした)システムの関係で、そう大きな苦勞をする、という事はなさそうな感じです。問題はやはりアプリケーションだろうと思いますが、これはその大きな原因がという感じです。要するに、システムが考えているメモリーマネジメント能力とアプリケーションが現段階で考えているメモリーマネジメント能力に差があるという事では無いでしょうか?昔ではCiを購入するよりCxを購入した方が得だ...という様な一部意見も聞きますが余り意味の無い様な気がします。以前の経験でもこうした対応はじきにソフトの方が追いついてくると思うからです。一例としてはMacDrawII等はアプリケーションヒープが充分あるにも拘わらず、ドキュメントが開けない!といったきたり、エクセルを使用していると、突然DAが開かなくなったり、といった状況はあります。しかし、以前のように開いた途端に爆弾...というケースに遭遇する事は非常に希である感じです。本当にアプリケーションのコンパチビリティが問題となるのは恐らくシステム7.0の登場以降の話でしょう。その他、スピードに関していえば、これは文句無く速い、の一言に尽きます。以前の(68020)B/Wの感覚で、8ビットのカラーが走る...といえば想像がつかないかと思われまいます。ステップアップとして、キャッシュカードを入れて、24ビット+カラー用のアクセラレーターを入れると(RISCチップ)どんな世界が展開されるのか、興味がつきない中島でした。

◎ 63: 90MAC035 90.02.23 10:31 とうとうSE/30が来ました!

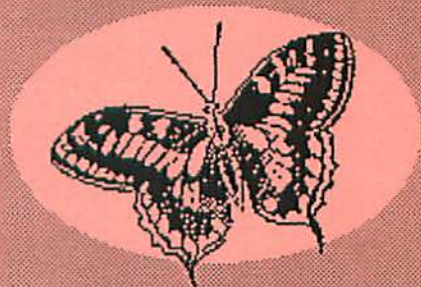
2/23待望のSE/30が手元に届きました。(^^)さっそく梱包を解いてGO! (ワクワク) あれ? フロッピーの? マークが出てきた。そうかそうか、まだセットアップしていないんだっけ。(いつものつもりで、立ち上がると思っていた愚かな私) (^^)さてと、日本語システムは? ムムこれは、英語バージョンの梱包だ! さすが、STEPやることが早い? (そうです、これはSTEPから買った製品です。え〜と、¥640Kだったと思います。) 日本語解説書付きとあったのでどれかなと探してみたら、BNNで出している「初めてのMacintosh」という本が1冊転がり込んでいるだけでした。(もっもしかし、日本語解説書付きとは、このほんのことかな?) 確かに、日本語マニュアルとか、日本語システムという説明ではありませんでした。(X-<)とにかく英語のSystem6.0.4を組み込んで立ち上がって一息ついた浅田です。

◎ 4: 90MAC026 90.03.18 10:45 自転車暴走族からのレポート

自転車、それも普通のタウンサイクルで暴走族の仲間入りをした照井です。「Geminiにしようか」、「SE/30にしようか」、「それとも何もせずに少し待って新しい機種が出たら考えるか」といろいろ悩みましたが、意思決定に大きく影響したのは次の3点でした。

1. 福田さんのGeminiレポートに大いに刺激され68020,68030の世界が見たくなった事。
2. 生協SEの登場で今持っているSEを息子に引き継ぐメリットが無くなった事。
3. System 7.0のアナウンスに引き続き、林檎7号の「ままなコラム第6回」の中島先生の示唆に富んだ記事により、大きく心を動かされたこと。

等々の理由で多少動かないソフトが出現する事は覚悟の上で（少し大げさか）SE/30へのアップグレードに踏み切りました。結果は良いところも、まずいところもおおよそ期待通りで所期の目的は達成しました。ソフト的には、今使用しているINIT,cdevは全てそのまま動きました。しかも私の場合は「漢字Talk」を除いて名前の順に立ち上げています。アプリケーションでは、Studio SessionとIllustrator88 V1.6が動きません。何れもErrorID=1です。さて自転車（低速HD）の問題ですが、今のところ5MBのRAMに頼ってあらゆるキャッシュを大きくして試しています。次に適当なフォーマッターとドライバーを使いインターリーブ等も色々やってみようかと考えています。しかし「林檎7号」の福田リポートによれば泥沼の世界の感じもするので、まずは「林檎8号」の編集を終えてからにしようと思っています。純正の「Apple HD SC Setup」にもある期待（疑い）を持っています。と言いますのは、これには大したバージョンのアップも無く、機種別のリビジョンという事も無さそうなので、CPUの違いにより最適のSetUpをしてくれるのでは無いか？ということです。どなたかこの辺の事ご存じ無いですか？



◎ 14: 90MAC005 90.03.15 17:18 Geminiだって

すてたもんじゃないんですぜ。こないだSE30でAdobe Illustrator 88 1.6が必ずけるのを確認したところです。Geminiは何事もなく快適に動いているのですよ。スイスイと。

ふの字より

◎ 12: 90MAC025 90.03.16 15:04 私もGEMINIで暴走族の仲間入り！

最近、業務多忙のため例会にもご無沙汰しております。実は昨年 of 年末、勇気を出して私のPlusにGEMINIボード(68020/68881)を付けました。検討に際しては、MacJapanの記事や福田さんのレポートが大変参考になりました。ここで改めてお礼申し上げます。感想は、「速い！」の一言に尽きます。SuperPaintでキャノンフォントを使ったときなど、スクロールが実にスムーズになりました。先日職場にMacIcxが入りましたがスピードではほとんど遜色ありません。むしろ、IcxではSuperPaint 1.1が走らなかつたりしますが、GEMINIでは問題ありませんでした。LaserWriter II NTXへの出力も正常です。私は、当面virtual memoryを必要とは思っていませんので、68020で十分です。唯一の問題は、ハードディスクをインターリーブ1:1で再インシャライズする必要があったことです。今から新しくMacを買うのでしたらSE30がお薦めでしょうが、Plusをとことん有効利用するのであれば、GEMINIは実に強力な援軍になると思います。暴走族の仲間入りした本多(90MAC025)でした。

きままなコラム

第7回

by ... 中島 順



「移り行く季節と デザイン」

「寒の戻り」は必ずやってくるにしても、冬は峠を越えて春はすぐそこ...盛岡はまだまだ寒いのでしょうかね...季節の移り変わりを肌で感じさせてくれるこの国は良いなあ、(税金や選挙の問題などはこの際忘れて)と何気なく考えてしまいます。皆さん風邪などひかず、元気にマックとの生活を楽しんでいらっしゃいますでしょうか?



もうすぐ春ですね!

さてさて、今日は何を書こうかといつもの様に考えつつ(私は物を書く時に予め考えて臨む、という事はなるべくしない事にしています。そして、書き終えた後も変更は必要最小限で済ませようになっています。緊張と集中を「一瞬」に集約できるからです。後に大幅に変更するという事はこうして書いている「今」を無駄にしてしまう様な気がして...)バタバタとタイプしているわけですが、今回は「デザインについて」考えている事を書いてみようかな、と思います。暫くお付き合いくださいます様に。

デザインとは何ぞや?と考えると、私は「それは単に物の持つ形だけを指し示すのではない」と思います。形、色、質感、調和すべき周囲環境(時代性も含め)、そうした種々の条件が総合された結果、人間に付加される価値をもって私達に良しとされたものを「グッドデザイン」と呼ぶのではないかと思います。例えば、ニューヨークの中心部にこの国の「茅葺屋根の家」が突然出現したとしたらどうでしょう?それは「興味深い」デザインかも知れませんが、「Excelent, Sophisticate」と評価されるかどうかは甚だ疑問です。勿論、ロールスロイスの様に周囲の環境に左右されない、ある種の「絶対的な」デザインと言うものも存在する訳ですし、(それは周囲環境等を無視しえる程「デザイン」が「存在価値」になってしまっているのでしょうか)一様ではありませんが、こうした極端な例は別としても日常使用する「道具」の範疇では、デザインの善し悪しを決めるのは私達の持つ文化と物とが織りなす総合的な「調和」である様に思います。逆の視点から言えば仮に一つの道具が人間の生活環境や考え方、(そうしたものを文化と呼ぶのであれば)を向上させる手段になり得るとしたら、それは素晴らしい事かも知れません。そしてそれが本質的に変化を好まない国民性を持った「この国」では本来、とても起こりにくい事だとしたら尚の事です。現代を生きる私達は文化生活と呼ばれる殆どの部分において和洋折衷の洪水にもまれて生活しており、この国の国民はとても勤勉で学んだものを応用して新しい何かを産みだして行く柔軟性を持っている筈なのに、未だ私の目には(私自身も含めて)「この国だけが持つ固有の文化」が見えてきません。

ちょっぴり悲しくなりましたが、「何時かは自分たちの誇れる文化を。それがたとえ私達の世代でないにしても次に残せる遺伝子として」という事に希望を持って、本論に戻しましょう。



さて、今までお話してきたような論点からマックとデザインを考えたとき、私が一番素晴らしいデザインを持つと感じるのは、やはり「オリジナルマッキントシュ」です。それは何故かと言えば「自己主張が少ない故に目立った」全体像を持っていたからです。とても小さく、冷却ファンも持たず、色や質感は「日本の京壁」に非常に近く、敢えて言えば「和室の床の間に置いても通用する佇まい」を持っていたと思います。(こうした事にジョブスがとても執念を燃したのは彼の中にあつた東洋の神秘性に対する傾倒が相当影響したように思います。「動」に対する「静」の様な。アメリカ国内ではあのデザインの全体像そのものがかなり「異質」であり、それまでのコンピューター文化に一石を投げたいと願ったジョブスの信念があつたというのは果たして考え過ぎでしょうか?)

私達の平均的な居住空間は欧米に比べたらきっと小さいに違はなく、という事は同じサイズであれば居住空間を占有する比率は私達の方が断然高くなる(つまりは目立つという事)訳です。(今、ブック型のパソコンが売れまくっているのもこうした背景が影響していないとは言えないと思います。)こう考えると尚の事、あれは「この国の生活に密着可能な」素晴らしいデザインだった、と思います。

ではそれ以後のマック（プラチナカラーのものも含めて）は駄目なのか？と言えそれは「ノー」です。明らかに「ノー」です。総合的にマッキントシュシリーズは最新のポータブルを含め、素晴らしいデザインラインを貫いていると思います。同時に、モニター分離のタイプが出現してからはマッキントシュのデザインは方向性が変化してきたのではなからうか？とも思います。要するに「外観をデザインとして捕える事からの離脱」です。



私が昔からコンピューターというイメージを自身の中でデザインした時に、最重要視したものは「モニター」だった様に思います。それがインターフェースの中核であることは今も変わりありませんから当然の事と言え当然なのですが。そして、今、私の机の上にはまさにその世界が展開されており、もはやアップル純正のものと言えばキーボードだけになっているのです。こうした環境下でもマッキントシュの持つデザインは素晴らしいと感じています。では何故、そう感じるのでしょうか？それはきっと、もはや「外観」ではなく「継承されたシステム体系」に素晴らしいさを感じているからに違いない、そう思います。この事実は私にとって、大変重要な意味を持ちます。つまりは「私が魅了された本質とは何だったのか？」をマッキントシュのシリーズが改めて意識させてくれたからです。デザインとは外観のみで論じられるものでは決してないのです。車も、電化製品も、そして洋服も「この国」では頻りにモデルチェンジがなされなければ存続できない経済構造が確かにあります。しかし、その中で一体どの位「本質を変えず、飛躍的に方法論を進化させ、外観をその価値の中心に置かない」物があるのでしょうか？逆にどの位「本質は変

わらず、進化もせず、外観だけで勝負している」物があるのでしょうか？一度、皆さんもこうした視点で周囲を取り巻く「道具」を眺めて見られる事をお勧めします。コンピューターの分野はとても進化が速いので、ある意味では象徴的な例になるのかも知れませんね。



私は最近、アップルが以前から提唱している「ナレッジナビゲーター」という造語こそがマッキントシュ連のシリーズに共通するデザインポリシーであり、資産なのかも知れないなあ、と考え始めています。外観は周囲環境との関連によってその評価がなされ、という事は時代の流れにより当然のごとく「変貌」しなければならない運命があります。（町並みが変わり、住む人が変わって雰囲気は少しづつ変化するように）だからこそ使う側がより注目すべきは「納得できる価値ある本質」なのだろうと思います。こう考えると、確立され、継承される「遺伝子」（多分に精神的なものです。形が受け継がれるという意味ではありません。）こそが本来のデザインかも知れない...他の要素はそれに基づく必然性によって生まれてくるに過ぎない...と言えるかも知れません。何かをデザインする人達を総称して「デザイナー」と呼びます。そして、その単語の前には様々な修飾語がついています。（最近では「空間」までデザインしてしまうというから恐れ入ります）情報がこれだけ氾濫する現代において、様々に「デザイン」されたものを使う「末端」にいる私達は、せめて本質を見極め、判断する意志だけは見失ってはならない、そう思います。様々な価値に基づく方向性の差はあったとしても、そうした「動機づけ」を個々が確立して次の世代に継承する事が、「この国」における固有の文化を育てる原動力になる、と私はそう信じ

ています。とても、大袈裟で遠大な話しになってしまいましたね。たかが「デザイン」の話題なのに。でも、だからこそ色々な意味で、されど「デザイン」なのです。

今年は私も自身の小さな会社の移転を来年に控え、私の考えられる限界でオフィス「デザイン」しなければなりません。私の場合、今回は逆転の発想で「マック本体を隠してしまう」事を考えています。小さいけれど整然としたオフィスで何台かのマック本体を総てファイルキャビネットに収めてしまう。目に触れるのはそれぞれ「デザインの良い」モニターとキーボードのみ。そして、モニターの画面の中には紛れもなくマックの世界が展開されています。知らない人に「何処に本体はあるですか？」と聞かれて、「ここです。」とファイルキャビネットを開けた時、そこにはきっとオリジナルとは違った意味で美しくシステムとして、「デザイン」されたマッキントシュが存在するに違いない、と確信してファイトを燃やす今日この頃です。

では新緑の頃、また次号で。（うむ、今回は「鍵括弧」の多い文章になってしまったな。反省。）



(7ページから続く)

検索文字列の左上のポイントを確定します。

そのポイントから文字の大きさ分の不透明のボタン(つまり枠の線のないヤツ)をset rectします。この時点ではhideしておきます。次にこのボタンをshow,hideしますと、あたかも検索された文字自体がプリンクしているように見えます。

HyperTalkにはfindというコマンドがあって素早い検索をしてくれるのですが、見つけた文字を枠で囲ってくれるだけなので、どこで見つかったか解かりにくい点があってこの方法を自画自賛していたのですが、いかんせん検索のスピードが遅くて現在はfindを使っています。

カード内での検索はXCMDでも使えばスピードアップは図れるのですが、カード間の移動自体が遅く、こればかりはXCMDでも解決できないので便利さよりもスピードを取っています。

MacUserスタックとの出会い

何時だったか忘れてしまいました。秋口の月例会で照井さんからMacUser誌のプレミアムスタックをいただきました。このスタック、アイコンとカーソルのサンプルをたくさん持っていて、様々なイメージをかき立ててくれました。

ボタンのアイコンはスクリプトから設定できることは知っていましたが、このスタックでは巧妙な使い方をしていました。たとえばボタンにはスナップスイッチのアイコンが設定されていてスイッチは下にさがっています。クリックするとスイッチは上にあがります。本物のスイッチの動作を見ているようです。

これはちょうど対になるアイコンをスクリプトで変えているわけですが、こういう方法を使えば状態表示に様々な可能性が開けてきます。もちろんアイコンリソースを作らなければなりません。ResEditがあれば、それほど苦労しなくても既存のアイコンを変更したりして作ることが出来ます。

Amenityカーソル

おもしろいのはカーソルです。ボタンはせいぜい二つの状態を切り替える程度ですが、カーソルは少しづつ違ったりソースをループの中で設定すると、アニメのような動作をします。これは刻々と変化する状態を表示するのに最適です。

HyperTermではファイルをダウンしたりアップしたりしている最中のカーソルに使っています。カーソルでも変えないと変化は何もないわけで、動作中を疑われますから。

Pascalを手に入れる

そうこうしているうちにLightspeed Pascalが手に入りました。最初は手始めにAboutを作りました。

Aboutはhideしたフィールドを利用して付けていましたが少し面白いヤツを作ることになりました。

LSPのサンプルにObjectDrawというのがあって、そのAboutがちょうどユニットになっていましたのでこれを骨組みにしました。

オリジナルは黒い背景に白抜きで文字列が上から順に中央めがけて左右から寄ってくるという代物でしたが、これをあちこち手を入れて作り上げました。PICTもニューッと現われます。

バージョン履歴

このAbout、作者の自己顕示以外の何物でもないと思っていましたが、実は切実なニーズがあるのです。絶えず手を入れていきますと新旧を区別するためにバージョンナンバーを変えてAboutに書きます。同じボリュームにバックアップやら何やらのファイルが散らばりますと、たとえファイルの名前を変えていても立ち上げたときは区別できませんからAboutだけが頼りです。常に最新のバージョンに手を入れているつもりで実は古いのをいじっていたとか、新しいのを捨ててしまったとか、そういうトラブルが多発します。Aboutを一番良く見るのは開発途上の制作者ではないでしょうか。

そして、バージョン毎にどこがどう

変わったのか履歴を書き出して管理していないとだんだん混乱してきます。

はて、これは前とどこが違っていったっけ、なんて考えるのはしょっちゅうでした。

PutCRは日本語との格闘

LSPを手に入れてXCMDを作る道が開けると、前々から不満に思っていたHyperTalkの文字列操作の遅さをカバー出来ることになりました。

通信ログを切り出すスクリプトはHyperTalkでは遅くてストレスが溜まります。一連の文字列操作のスクリプトはXCMDに任せることにしました。さらに、HyperTalkでは出来ないことも出来ます。

文章作成画面でCuCRの反対に指定した文字数で改行するボタンが欲しかったのですが、HyperTalkは指定したバイト数でしか切り出せなかったもので、日本語は漢字の途中で切られることを回避できなかったのです。(このときはHyperCard 1.1で開発していました。1.2.2でも事情は同じでしょう)

指定した文字数(*2=バイト数)の最後のバイトが漢字の1バイト目かどうかを判断して、もしそうなら一つ手前にCRを挿入してやる。これだけのことに手間ひまがかかります。泣きの涙で作りましたヨ。

現在のPutCRは1字/行に指定しても全角半角交じりの文章をきちんと整形してくれます。

ダイアログの怪

小さなMac Plusの画面で見ているときには気がつかないことがありました。たまたま月例会などでMac IIで動かしてみるとダイアログの出る位置がPlusと違うのです。しかもその出方が統一されていない。

たとえばHyperTalkが最初から持っているAskとAnswerのダイアログの出方が違う。大きなディスプレイではHyperCardのウィンドウは左上に出る。ま、見にくいのでドラッグして中央に持ってくる。するとAsk、Answerは画面の左上隅を0,0にして固定された

座標でダイアログを出すというわけです。使っている人達はどこにあるかとウィンドウに視点があるわけで、ウィンドウにダイアログを出してくれないとちょっと困るんだけどナァなんていながら仕方無しにAnsw2を作る、Ask2を作る。こうやって出方を補正したXCMDをいくつか作る羽目になったわけです。

◆ 1.2.2は中途半端

そうこうしているうちに、HyperCard1.2.2 J が手に入りました。

メニューを経由しないですべてのスクリプトを直接いじれたりコマンドや関数が増えたりしてそれなりに使いやすくなっていますが、いくつか困った現象が起きます。

一番困るのは、char n of containerが特定しないことでしょうか。漢字モードと英語モードでは文字の数え方が違う。しかもその時のモードが解からないとき。後に野村さんがいい手を考えたのですが、私はこの時点では力任せに、文字を絶対バイト位置で切り出すXFCNを作って解決してしまいました。SliceLine(container,切り出し開始位置,切り出すバイト数)がそうです。

モードの如何を問わずに位置が確定します。

◆ 遅さをカバーする遊び

こうやって遅さの原因になっている箇所をXCMDやXFCNで置き換えていったわけですが、根本的に遅さを回避できないところがあります。

前にもお話ししましたが、HyperCardがディスクアクセスを頻繁に行なうことに起因するスピード低下。そしてカード間、スタック間を移動すると読みだしに時間がかかること。

力任せのスピードアップが一段落して、次に打った手は待ってる間を長く感じさせないための工夫でした。

一番時間がかかるのはログを切り出しているときなので、この作業の間BGMを付けることにしました。

HyperCardはマルチメディアのベッドですから、Soundを扱えるように

なっています。

手軽に音を出すにはPlay文で標準でもっているsndリソースを使ってシコシコ作ることになります。

余り長いヤツは符面もないことで少し敬遠して「天空の城ラピュタ」テーマのサビをいただくことにしました。

で、Hay文で書いては確認し書いては確認するのに結構手間暇かかりますから、作曲用のツールとしてスタックを一つ作りました。

鍵盤をならべておいて、クリックすると音が出ると同時にPlay文にコード追加して行って記録を取っておいて、再生や変更ができるという代物です。

Play文は音引きが不得手なようで、はずむ感じの曲は何とか出来ませんが叙情的なやつは無理でしたが何とか短いフレーズが出来ました。

現在のHyperTermはログを切り出すと短い演奏をするような仕様になっています。

◆ 状態表示は楽しみながら

自動でアクセスしますとほとんど変化がないものですから動作中かどうか疑われます。じっと見ていると不安になってきますから、こまめに今何をしているか報告させるようにしました。

こういうときにMsgボックスは重宝しますが、HyperCardの現在の仕様では固定したサイズのMsgボックスしか使えませんから、長いメッセージはフィールドを利用して表示させるしか手はありません。と同時にメッセージからメッセージの間が長いときはさらに別の手を考えなければなりません。

先のアメニティカーソルなどは長いループを回しているときには最適のお慰みです。

絵心さえあれば、色々面白いことが出来ます。地球をグルグル回したり、簡単なアニメを動かすことも出来ます。ただし16dot*16dotという小さな範囲での話ですが。

◆ スタックを鍛える—エラー処理
使い勝手を良くするための処理というの一人です。やってもあんまり進

展しません。なにしろ作者にとっては長いこと付き合っているので不便を不便と感じなくなっているからです。

ある程度バグが取れてきたら色々な方に使っていただいて意見をいただくのが一番です。別な視点から見直すと作者の常識がひっくり返されます。

同じようにエラーに対する処理も他人に使っていただいて見つけていただくのが早道です。

作者は出来るだけ客観的に色々な場合を想定してトラップを仕掛けていますが、予想できない使い方を予想するというパラドックスのために完璧にエラー対策を施すことが出来ないのです。

他人に使っていただくと、踏んだり蹴ったり逆さにしたりといった具合にありとあらゆることが起きます。この試練を潜り抜けてようやく一人前になって行くわけですが、HyperTermもIMFの多くの方にいじめられながら今の姿になっています。

◆ HyperCardに何が出来るか

HyperTermの開発過程を通してHyperCardと付き合いながら、様々な制約とそしてそれを上回る可能性が見えてきました。

HyperCard自体は閉じられた世界です。それ自身でも数多くのことが出来ますが、やはり限定された世界です。

しかし、XCMDがHyperCardとMacの世界をつないでくれます。

一旦XCMDに制御がわたるとMacでできることは腕さえあれば何でも出来ます。

一方HyperCardはユーザーインターフェースをいとも簡単に構築できます。HyperCardの癖は否めませんが簡単さという利点を考えれば我慢しても十分です。

HyperCard+コンパイラーの環境はソフトウェアベンチとしてかなりのことが可能になります。

見えがかりはHyperCardのままで、それこそ羊の皮をかぶった狼、007の変身スーパーカーを作れそうだと思うのは私だけでしょうか。 完



余計なお世話 ...by 野村行憲

Easy Access編...その2

もしも左手を怪我したら...

前回に引き続き物騒なタイトルでお騒がせします。今回は前回に引き続いて Easy Access のもう一つの機能である、KeyboardのOne Finger Operation についてお話します。

Macintoshでは結構頻繁に複雑なキーボード操作を要求されます。

例えば、Option キーを押しながら何かのキーを押すとか、Command キーを押しながら何かのキーを押すといったようなことです。甚だしいのは Shift と Option と Command キーを押しながら、他の何かのキーを押す必要が有ったりします。

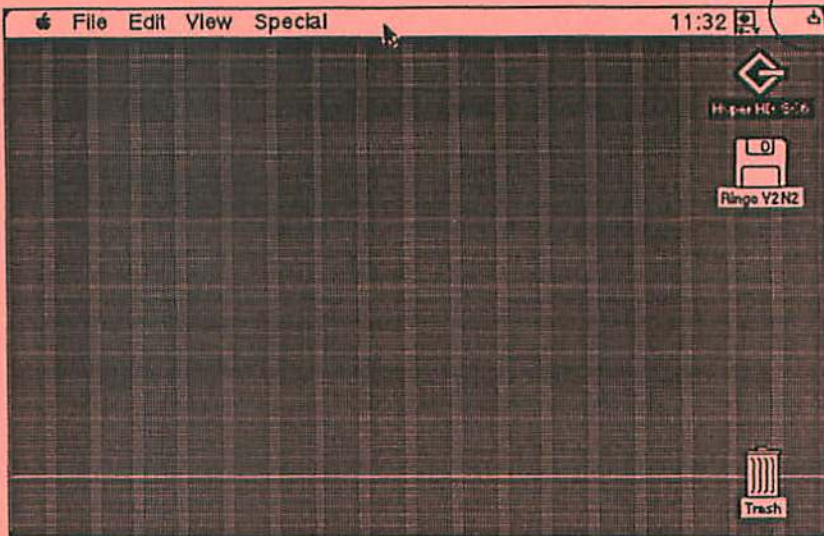
これを片方の手だけで操作するのは至難の技と言えます。まして指一本では不可能ですよ。

ところが、どっこい、そこはそれ、我がMacintoshはあらゆる人の味方ですから、ちゃあ〜んとできるようになっているのです。感心々々。

オマジナイ

Shift キーを5回続けて押してみてください。画面右上隅に、お盆の断面のようなマークが出てきましたか？このマークが今回説明する機能が働き始めたシルシなのです。

このマークが出てこない人は、今使っているシステムフォルダの中に Easy Access というシステムファイルが入っているかどうか確かめてください。(Easy Access については前号で説明しています)



これで一本指操作ができるようになっています。早速一本指操作でショートカット操作を試みましょう。

マウスでゴミ箱を選択して反転表示にします。そしてファイルメニューのインフォメーションを実行してみます。

このメニューは、Command (⌘) + I でコマンドショートカットができます。

それでは実験です。マウスでゴミ箱を選択して反転表示をしていることを確認し、画面右上隅のトレーの表示を確認します。そしておもむろに Command キーを押してそのキーから手を離します。そうすると例のトレーの上に、下向きの矢印が表示されます。これは特殊キーが押されたことを Macintosh が確認したことをあらわしています。(上の画面を参照)

これで、I のキーを押すとインフォメーションが出てきます。

どうですか、旨く行きましたか？これが Easy Access の2つめの機能です。この機能はコマンドショートカット以外にもかなり役に立つことがあります。

例えば、英文のテキストを入力しているときなどは、名詞や文頭で大文字を打つ場合の Shift キーにも使えます。これも簡単に実験できますから試してみてください。

簡単なテキストエディタを開いて例のトレーを確認してから、Shift を押して一旦手を離し、次に文字のキーを押してみてください。ちゃんと大文字で入力されていますね。

おっと、忘れるところでしたが、この機能を Off にする方法は、On にする時と同じく、Shift キーを5回押すだけです。ちなみにこの機能については、マニュアルに記載されていますのでご覧下さい。The mouse with you!

IMF's 掲示板

●Macintosh 専門の展示会「MACWORLD Expo.」が遂に日本で開催されることになりました。

日程は、来年：2月14（木）から16日（土）

会場は、日本コンベンションセンター（幕張メッセ）。

これは楽しみです。皆でワイワイ繰り出しませんか。

●5月から例会の場所が変わります。

南大通り2丁目の木津屋さんのお二階をお借りすることになりました。詳しいことは、裏表紙の地図を参考にしてください。

岩手大学教育工学センターの大河原先生には長い間会場をお貸しいただき、本当にありがとうございました。あらためまして御礼申し上げます。

編集後記

「山の花」は会報の途中で息抜きの出来るページ、やっぱり字数が少ないほうが良いですよネー佐藤

もうこれ以上文章を書くのが面倒くさいので、何も言うことがありません。ご免なさい。 -佐々木

皆さん、3月は本当に忙しい月でしたネ。おかげでとっても寝不足です。この上編集会議で寝不足になるなんて耐えられませ〜ん。今夜は、この辺で帰らせていただきます。

本当に帰りますよの熊谷でした。

今回は忙しくて間際まで原稿が仕上がりにませんでした。校正をかける暇が無かったので殆ど生まれっぱなしで世に送り出します。おまけに徳富編集長のスペースまで横取りしてしまいました。人に迷惑をかけなければ世が渡れない福田です。

もう書くネタが無い...と言いながら今回も余計なお世話が書けました。本当にネタ切れになってしまいました。次回は何を書こうかな？本当に余計なお世話になりそうで怖いなあ。

総会で皆さんがどんな顔をして

「林檎」を読むのか楽しくもあり、恐ろしくもあり。 ... 野村

今回は適量で良質な原稿に恵まれました、大変楽な編集をさせて頂きました。

照井

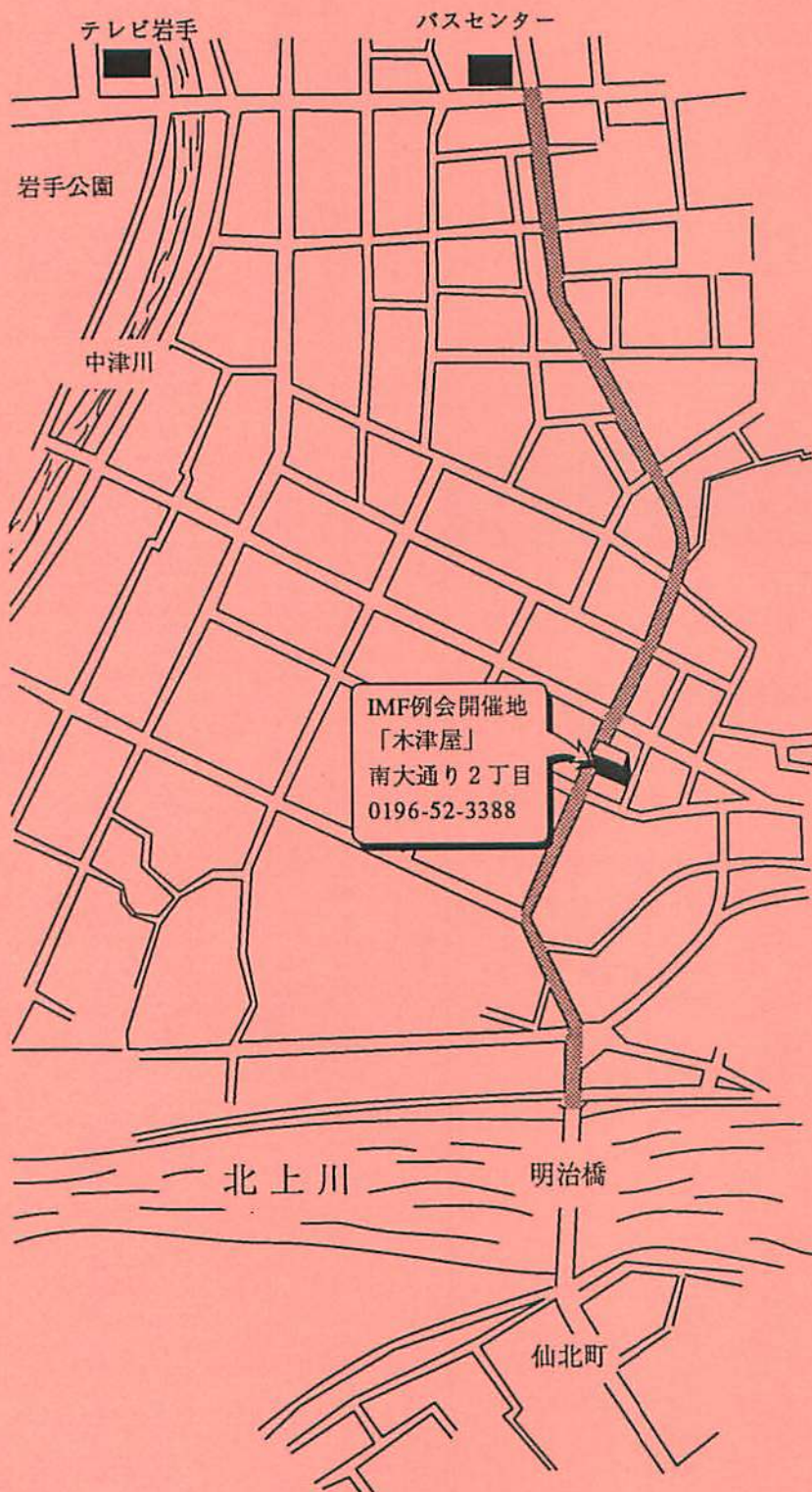
残念、今回は12時になってしまい、お茶にはありつけなかった。次回はもう少し手際良くやりましょう。でも、お茶を飲むより、編集会議をやってるほうが面白い徳富でした。

杉村さん、印刷遅くなってしまうってご免なさい。今後とも宜しくお願いいたします。



会員名簿

Dick Harry	盛岡市	
Evelyn Harry	盛岡市	
Richard L Lammers	盛岡市	
浅田 昌雄	和賀町	90MAC035
浅沼 清智	花巻市	
浅野 恵治	花巻市	
荒木 健次	東京都	10ZZD035
安保 淳一	盛岡市	
伊崎 誠一	盛岡市	
大河原 清	滝沢村	90MAC021
沖野 寛	二戸市	90MAC044
小沢 徹	盛岡市	90MAC029
桂川 茂彦	盛岡市	
兼平 信一	盛岡市	90MAC055
豊沼 まゆみ	盛岡市	90MAC051
賢野 卓矢	盛岡市	90MAC006
工藤 道純	盛岡市	
観谷 朋也	盛岡市	90MAC008
香城 孝慶	盛岡市	90MAC016
小松 寿夫	北上市	
斎藤 武	盛岡市	90MAC009
斎藤 怜	盛岡市	
佐々木 幸司	盛岡市	90MAC033
佐々木 俊光	胆沢町	
佐々木 文雄	紫波町	
佐藤 麗人	盛岡市	90MAC010
猿橋 浩昭	北上市	90MAC043
渋谷 誠	盛岡市	90MAC047
白石 隆	都南村	90MAC039
菅原 健雄	盛岡市	
杉村 栄一	盛岡市	90MAC036
鈴木 是光	盛岡市	
鈴木 卓	軽米町	
瀬川 昌男	盛岡市	
織場 博和	盛岡市	
高橋 晃	盛岡市	90MAC031
高島 浩一郎	盛岡市	90MAC012
武元 伸次	盛岡市	
田中 慶司	盛岡市	90MAC007
谷口 和美	盛岡市	90MAC056
谷藤 幸夫	盛岡市	90MAC040
照井 恒	盛岡市	90MAC054
照井 芳夫	花巻市	90MAC026
中居 亘	盛岡市	90MAC015
中居 賢司	盛岡市	90MAC011
中島 順	浪山市	90MAC003
西島 光茂	盛岡市	90MAC017
榎本 聡彦	八戸市	90MAC042
野村 行彦	盛岡市	90NOMURA
日比野 利彦	都南村	90MAC052
平野 三千代	盛岡市	90MAC019
福田 健次	盛岡市	90MAC005
藤村 洋	盛岡市	90MAC028
本多 健一郎	盛岡市	90MAC025
米谷 則美	盛岡市	90MAC037
前田 修悦	釜石市	90MAC059
真館 貞治	盛岡市	
松倉 拓次	都南村	90MAC032
三浦 一之	盛岡市	
三浦 利昭	浄法寺町	90MAC045
三浦 吉範	盛岡市	
三田 光男	盛岡市	
村上 誠一	盛岡市	
村上 弘行	盛岡市	90MAC049
村川 寿	柏市	90MAC001
望月 善次	盛岡市	
本館 康司	花巻市	90MAC013
藤 貞吉	盛岡市	
山田 真希	盛岡市	90MAC053
山本 淳	千趣町	90MAC034
吉田 新二	盛岡市	90MAC020
吉田 実	盛岡市	
吉村 弦	盛岡市	
和田 政男	矢巾町	



「林檎」8号は...

ASLTalk
 ByWord
 Color Magician
 Digital Darkroom
 EG-Bridge
 EG-Word
 Freehand
 Illustrator
 MacPaint
 MacVJE
 NinjaTerm
 PageMaker
 QuarkXPress
 SuperPaint
 Sweet JAM
 TurboJip
 TurboWriter

等で作ったものをPageMakerでまとめ、LaserWriter II NTX-Jでプリントしました。

1990/4/14 第8号
 発行 岩手Mac友の会
 代表 野村行憲
 盛岡市月が丘 1-1-36

非売品